

Creation of
New Azumino
Water
Project

企画提案書



安曇野水物語

Azumino Water Story 2009/11/24

安曇野創出プロジェクトとは

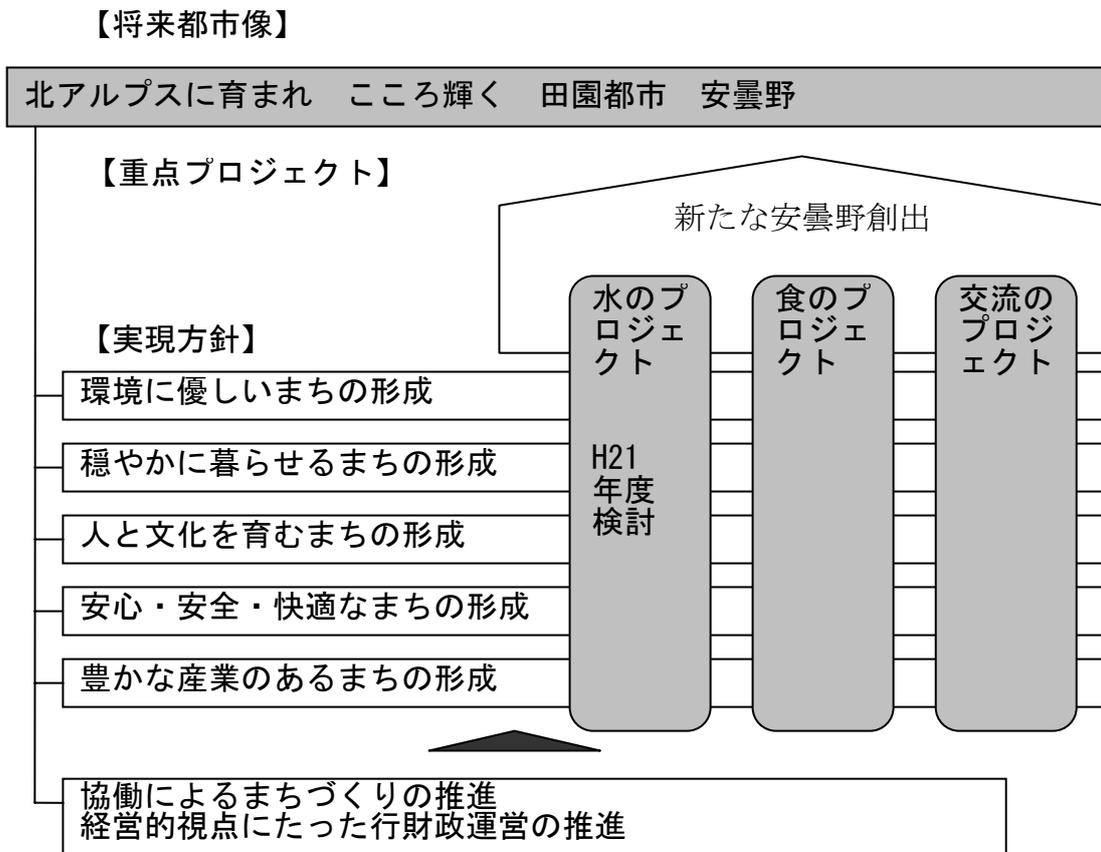
第1次安曇野市総合計画の基本計画では、将来都市像である「北アルプスに生まれ ころろ輝く 田園都市 安曇野」を実現するために、施策分野にとらわれず、市政全般にわたって長期的な視点から取り組む3つのテーマ「水」「食」「交流」を重点プロジェクトとして位置付けています。

各プロジェクトでは、“安曇野らしさ”を生かした個別事業の連携や相乗効果を高めるための取り組みを進めていきますが、3つのプロジェクトの内、平成21年度は「水」のプロジェクトに取り組んでいます。

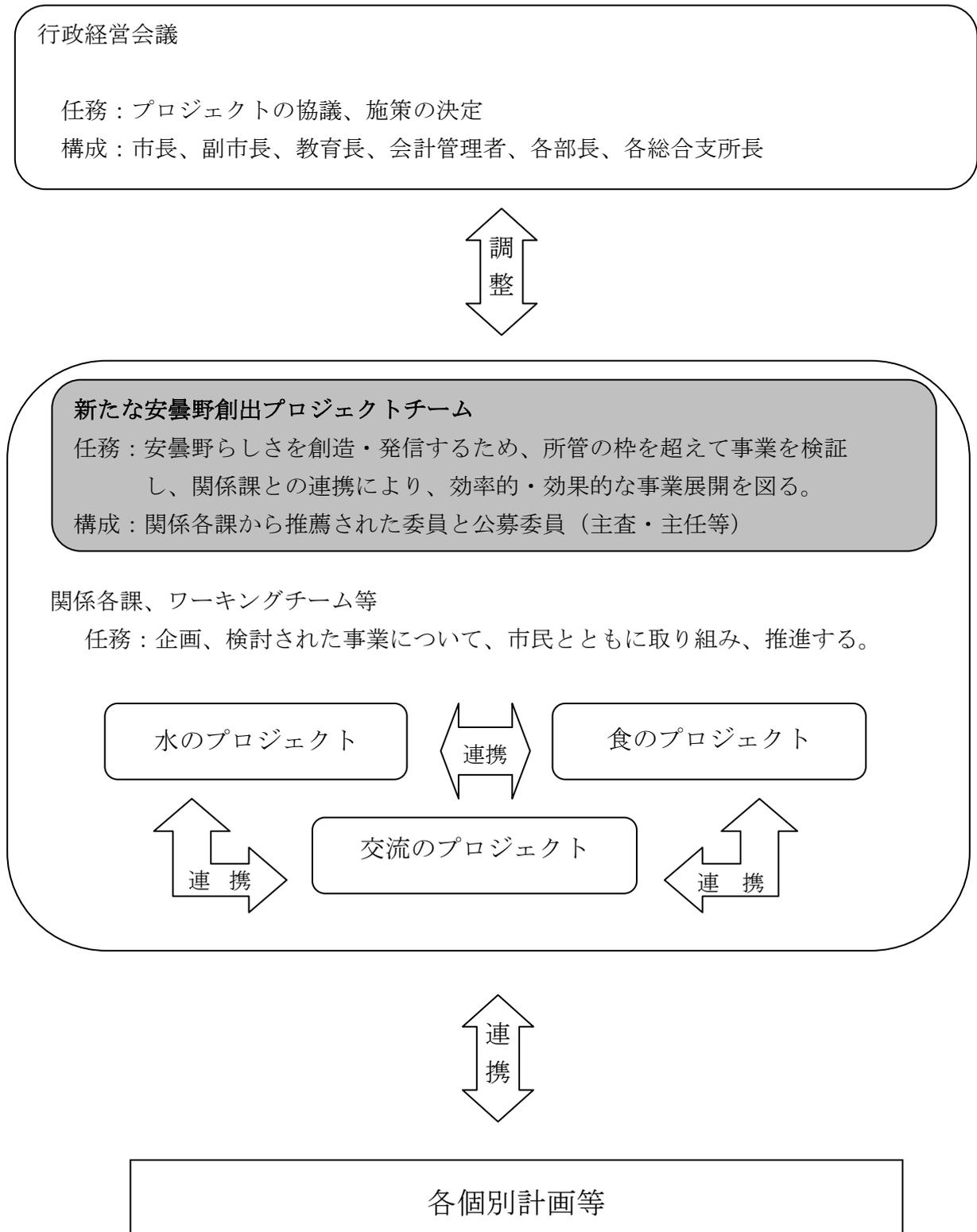
【重点プロジェクトの基本目標】

- ・ 安曇野の自然環境と産業・文化を守り育むこと
- ・ 安曇野らしい田園風景と暮らしを守り育むこと

【重点プロジェクトの位置付け】



【安曇野創出プロジェクト推進体制フロー】



【計画の年次】

総合計画では、将来像を実現するために必要な諸施策を定める「基本計画」の計画期間を平成20年度から24年度までと定めています。



水プロジェクト（AWSプロジェクト）の提案にあたり

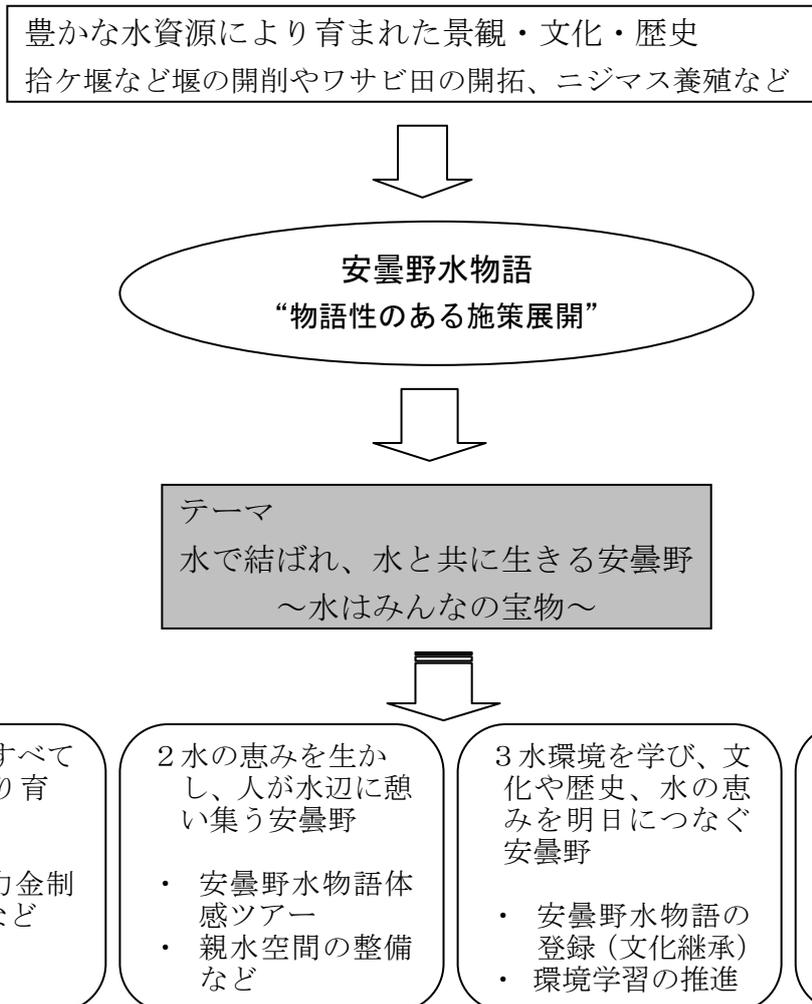
安曇野の豊かな水資源は、あらゆる生命を育み、わたしたちの暮らしを支えています。古くは、農民の期待を担い堰が開削され、ときには水害に見舞われ人々は水を敬ってきました。現在では、アルプスを源にする豊富な水資源は、飲料水はもとより稲作やワサビ栽培、ニジマスの養殖などにも利用され、その生産量は日本有数を誇るとともに、この地域は「名水百選」や「水の郷百選」にも選定され、豊かな自然環境を形成しています。

しかしながら、産業が発達し、便利で快適に暮らせるようになった一方で、地下水量の減少や水質の悪化が危惧され、わたしたちを取り巻く自然環境も少しずつ変化しています。

こうした現状を踏まえ、安曇野創出プロジェクトチーム会議では、安曇野の大地を潤す豊富な水資源は“安曇野の共有財産”であることを念頭に、3つのグループに分かれ、グループ討議を重ね、議論を深めてきました。

討議の中で、プロジェクトのテーマを「水で結ばれ、水と共に生きる安曇野」とし、次に示す4つの目標を掲げ、各目標に関連する施策の課題を把握し、この課題解決に向けた戦略や事業メニューを検討しました。

この事業メニューの提案にあたっては、拾ヶ堰の開削やワサビ田の開拓など先人たちが育んできた文化、歴史を踏まえ、水の大切さを再認識し、“みんなの宝物”である豊かな水資源をどう守り、どう生かしていくのか、分野の枠を超え、全庁的、総合的に“関連性、物語性のある施策”（安曇野水物語）を展開することを目指します。



I 水を守り、すべての生命を守り育む安曇野

環境循環型システムの推進

北アルプスを源とする豊かな水資源は、わたしたちの暮らしに潤いをもたらすとともに暮らしの根幹となっています。近年、豊富であった湧水が減るなど自然環境が大きく変わり始めていることから、水の涵養を促進し、里山の自然環境保全に取り組むなど水の循環型システムの構築が必要です。そこで、環境循環型システムの構築に向けて次のとおり提案します。

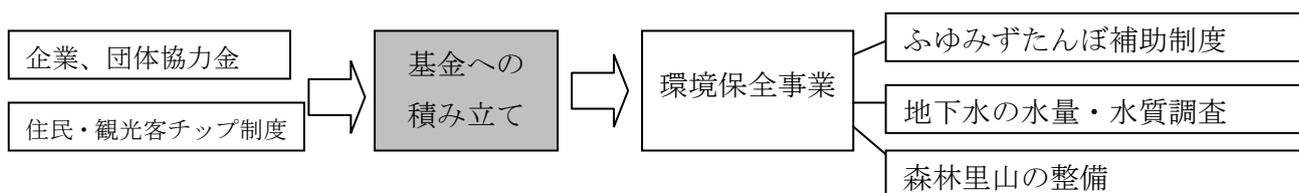
□ 事業・重点プロジェクト

1 水環境協力金制度導入の検討

地下水を利用する企業、団体などからの協力金や個人・観光客などから“水保全チップ”を募り、基金へ積み立て運用する。この資金を活用し、環境保全事業や市民公募による環境保全型活動を推進する。基金の用途などを検討する協議会を組織し、事業推進を図る。

事業内容	実施体制	財源等
環境保全基金を活用し、“ふゆみずたんぼ”補助制度や地下水の水量・水質調査、市民からの提案型事業への補助、里山整備事業などを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○制度導入検討委員会の設置 ○基金活用協議会の設立 (構成案) 地下水を利用している事業者等の代表(工業会、わさび・にじます事業者等) 学識経験者、市民代表等 ○基金の運用、管理面から民間団体の基金創設も望まれる。 	—

□ 水環境協力金制度のイメージ



2 “ふゆみずたんぼ”補助制度など環境循環型モデル地区の設定

モデル地区を設定し、冬期間に水田に水を張る“ふゆみずたんぼ”による地下水の涵養を推進する。また、ゾーニングにより透水性アスファルト材や透水性側溝を活用した道路整備を推進し、事業への取り組みを市内外にPRし、地下水の保全、節水に対する市民意識を醸成する。

事業内容	実施体制	財源等
“ふゆみずたんぼ”への補助制度の導入を検討する。水利権などの課題もあることから、モデル地区において、企業排水を利用し、実施する。このほか、ゾーニングにより透水性アスファルト材を活用した道路を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ○企業、農業生産団体等と調整し、段階的に実施する。 ○モデル地区は、企業協力が得られ、市内外にPRできる場所を選定する。 	水環境協力金の活用 安曇野ふるさと寄附金

3 森林、里山の整備

安曇野の豊かな自然環境の保全を図っていくことが極めて重要であり、水資源の涵養の観点からも森林、里山を整備する。

事業内容	実施体制	財源等
間伐や植樹などにより健全な森林を育成し、水の涵養を図る。また、森林教室などを開催し、子どもから大人まで誰もが気軽に森林、里山について学ぶことができる機会を設ける。	○行政、市民団体（組合）、企業などが連携し、市民参加の森づくりに取り組む。特に森林教室は、水のマイスター（環境ボランティア）や学校カリキュラム、社会教育事業とも連携し、推進する。	水環境協力金の活用 安曇野ふるさと寄附金

※水のマイスター登録制度については、10ページ参照



地下水保全の制度化及び地下水調査の実施

人口増加や産業の発展にともない地下水の汲み上げ量が増える可能性があり、地下水の水質や水量の経年的な変化の把握や評価、保全のための対策が必要です。そこで、地下水の保全に向けて、次のとおり提案します。

□ 事業・重点プロジェクト

1 地下水利用に関する条例制定等

地下水の保全計画を策定し、地下水の利用や水質保全に関する条例・規則を制定する。

事業内容	実施体制	財源等
地下水汲み上げ量届出制度の制定や地下水利用、保全に関する条例を制定する。	○関係団体の意見集約・調整 条例制定にあたっては広域間（大町市-塩尻市）の連携により制定する必要がある。 ○汲み上げ量をはじめ、各種データをホームページ等で公表する。 （公表した企業は、統一ロゴで認定する）	—

2 地下水調査の実施

経済面と環境面の両面から水収支調査など各種水質・水量調査に取り組む。

事業内容	実施体制	財源等
水収支調査をはじめ、各種水質・水量調査を実施し、データを公開する。 環境循環モデル地区周辺で実施することで、事業効果を検証する。	○千曲川河川事務所のデータと市で持っているデータを合わせ、地下水脈を探って、モデル事業に適した場所を選定する。 ○業務委託	水環境協力金の活用 安曇野ふるさと寄附金

II 水の恵みを生かし、水辺に憩い集う安曇野



親水空間の整備及び水辺を生かした滞在型観光の確立

北アルプスを背景に水田、堰、河川、わさび畑等の水が織り成す景観は、わたしたちの暮らしに潤いをもたらすとともに、重要な観光資源となっています。

近年、都市化が進む中で、農地の宅地化や水路改修等、本来の安曇野らしさが失われつつあることから、景観を守り、育みつつ、親水空間を生かした滞在型観光の確立を図るため、次のとおり提案します。

□ 事業・重点プロジェクト

1 (仮称) 安曇野水物語体感ツアー

安曇野を体感できるスポット等をつなぎ合わせて、回遊性のある散策コース等を設定する中で、コース上のスポット及びエリアを、安曇野らしい演出を加えながら年度ごと重点的に整備を進め、徐々に散策コースなどを増やして、より安曇野らしい親水空間に整備する。また、(仮称) 安曇野水物語体感ツアーを企画し、PRする中で、安曇野に滞在する時間を創出したり、人の流れを誘導したりすることによって地域の活性化を促進する。また、公共交通機関とコミュニティーサイクルなどを組み合わせて、新たな観光客の誘導を図る。

(例1) : 拾ヶ堰、矢原堰を軸とした、安曇野の疎水の歴史(物語)コースの設定

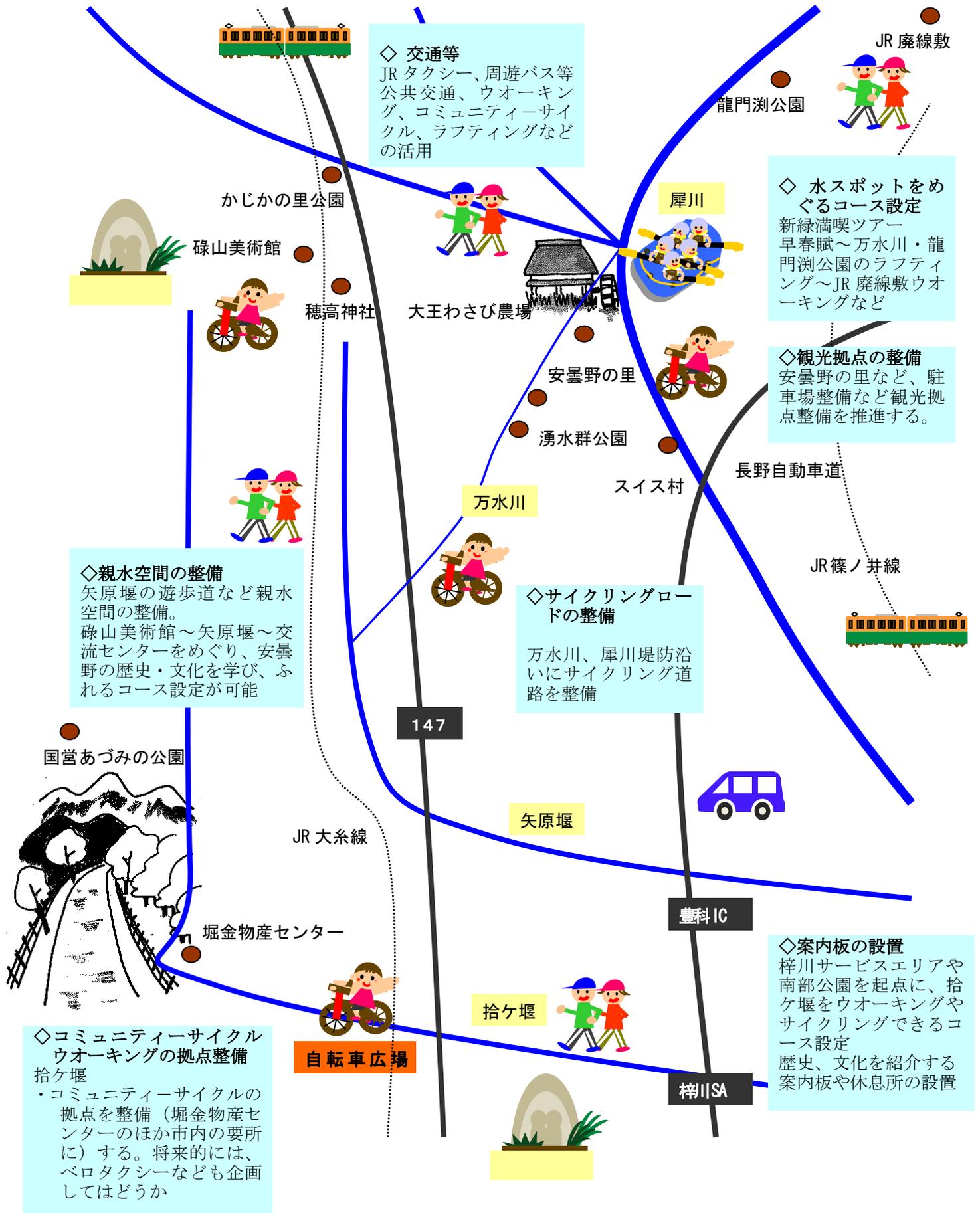
2つの横堰を軸として、湧水群公園、ビレッジ安曇野、大王わさび農場等の水のスポットを公共交通、ウォーキングやコミュニティーサイクル、ラフティング、カヌーなどでめぐるコースを設定する。万水川、烏川、穂高川、犀川など親水空間の随所にそれぞれの歴史等が分かる資料(開削の物語、堰や景観などを守る地域の取組み、四季の写真等)を整備する。

(例2) : 水辺の新緑をめぐるコースの設定

国営あづみの公園=拾ヶ堰=早春賦=大王わさび農場=万水川ラフティング=JR 廃線敷ウォークなど

事業内容	実施体制	財源等
<p>年度ごと重点的に親水空間の整備を進めるとともに、安曇野を体感できるスポット等をつなぎ合わせ、回遊性のあるコースを設定し、観光客を誘導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラフティング、カヌーなどの活用と拠点整備 ・道路、駐車場、遊歩道、サイクリングロード、公園、水路、堰等の改修及び整備 ・PR (ホームページ、マップ、PRイベントの実施) ・観光客移動のための公共交通体系の整備 (コミュニティーサイクルの拠点整備など) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業を検討する委員会等を組織し、コース設定等を含め、整備プログラム等を作成して、プロジェクトを推進する。 ○ 市民、事業者と連携した事業推進 (植栽、清掃、景観に配慮した建築物、安曇野らしい店舗等) ○ JR等とのタイアップ企画の実施 	<p>一般財源等</p> <p>国・県補助金等 (元気づくり支援金など)</p>

□ イメージ図（水のスポットを結ぶ、安曇野水物語体感ツアー）



2 水にかかわる食のブランド化

水にかかわる食のブランド化を図り、安曇野のイメージアップを図る。

事業内容	実施体制	財源等
・ブランド米の推進 ・ワサビ、ニジマス（信州サーモン）など ブランド化の推進	○安曇野創出プロジェクト会議（食のプロジェクト）で検討	一般財源等

3 イベントの展開

水にかかわるイベントと各事業を連携させて、安曇野のイメージアップを図る。

事業内容	実施体制	財源等
「お水とり、お水がえし」「お船祭り」「あやめまつり」など水にかかわるイベントを活用し、安曇野のイメージアップを図る。ガイドブック等を作成し、水を守り、育むことの大切さを啓蒙する。	○ガイドブックの作成 ○観光協会、JRなど観光にかかわる団体とのタイアップ	一般財源等

Ⅲ 水環境を学び、歴史や水の恵みを明日に語り継ぐ安曇野



水が育む文化、歴史の伝承

安曇野の田園には、先人たちが築いてきた堰が脈々と通っており、古くから水・災害と戦いながら水田・田園風景とともに発達してきた歴史があります。お船祭りやお水とり・お水返しなど水の恵みに感謝し、水との折り合いを付けながら文化を育んできました。そこで、先人たちが育んできた景観や文化、歴史を未来に伝承し、語り継いでいくために次のとおり提案します。

□ 事業・重点プロジェクト

1 安曇野水物語（文化・歴史）の継承

安曇野の豊かな水は、あらゆる生命を育み、私たちの暮らしを支えるとともに、農業・漁業に利用され、現在ある景観を形成してきた。この礎を築いた安曇野水物語を民話化し、登録するとともに、歴史、文化資料（写真等）をホームページ等に収録し、後世に語り継ぐとともに、安曇野創出プロジェクトの各事業メニューと関連付け、事業展開を図る。

事業内容	実施体制	財源等
「拾ヶ堰の開削」「ワサビ田の開拓」「ニジマス養殖発祥」「お船祭りのルーツ」など後世に伝えるべき安曇野水物語を民話化。歴史、文化資料（写真等）をホームページ等に収録し、安曇野創出プロジェクトの各事業メニューと関連付け、事業展開を図る。	○「安曇野風土記」などの歴史書物から安曇野水物語を選定する。 民話作家へ依頼し、図案化する。（業務委託） ○登録する物語の選定基準を設ける。	一般財源等 国・県補助金

2 環境学習事業の推進

水の大切さを自ら考え、行動できる子どもたちを育成するために、水のマイスター登録制度（環境ボランティア）を活用し、体験型プログラムを推進する。また、ホームページでビオトープをはじめ環境教育にかかわる情報を提供する。

事業内容	実施体制	財源等
<p>水のマイスター登録制度との整合性を図り、自然教室の開催など水環境の体験学習プログラムを実践する。子どもから大人まで幅広い年代を対象に世代別プログラムを設定する。また、実践団体の表彰も行う。</p> <p>さらに学校をはじめ市内施設のビオトープ情報をホームページに掲載し、学びやすい環境を整備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 行政、市民団体、企業などが情報共有し、連携しながら取り組む。 ○ 水のマイスター（環境ボランティア）や学校カリキュラム、社会教育事業とも連携し、推進する。 ○ ホームページや広報誌など広く情報提供する 	一般財源等

※水のマイスター登録制度については、10ページ参照

IV “水との共生”を市内外に情報発信する安曇野

水のトータルコーディネートの事業の展開

多面的な魅力を持つ安曇野の水資源について、トータルコーディネートし情報発信する。個別の取り組みや情報を体系化することで、参加者などに「分かりやすさ」、「一体感」などを示すことができ、各事業の相乗効果も期待できる。

□ 事業・重点プロジェクト

1 ガイドブック、水マップ、ホームページなどの作成

水にかかわる景観、歴史、文化、施策、活動などを体系的にまとめ、広く情報発信する。

事業内容	実施体制	財源等
<p>水スポットをまとめたガイドブックもしくはマップ「（仮称）安曇野水絵巻」、まめ本、映像フィルムを作成する。</p> <p>ホームページでは、景観、歴史（安曇野水物語の登録）、文化、市の施策などを体系的にまとめ、水のマイスターの交流の場ともする。水辺ライブカメラなどを設置し、水と共生する安曇野をPRする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ワーキングチームの設立。コンテンツを精査し、業務委託する。コンテンツについては、市民参加により、作成する。 	<p>一般財源等</p> <p>ホームページ</p> <p>バーナー広告</p>

※水のマイスター登録制度については、10ページ参照

2 水のマイスター（環境ボランティア）登録制度の創設

水にかかわる各分野に精通している人材を登録し、情報提供を行うとともに、環境学習の体験プログラムなどと連携させ人材育成を図る。

事業内容	実施体制	財源等
<p>登山ガイドや自然インストラクター、宿泊施設関係者など「水を守り」「水を生かす」人材や活動を掘り起こし、情報を収集・提供し、また異業種・異分野の交流を促し、活動の輪を広げる。特に環境学習事業との連携を図り、事業を推進する。</p>	<p>○簡単な書類審査や講習会を経て登録を行う。（県外サポーターの登録なども別途推進する）</p>	<p>一般財源等</p>

3 「安曇野水物語」CI事業の展開及び水のプロジェクト認定制度の創設

安曇野創出プロジェクト（水環境協力金制度）にかかわるロゴマーク、シンボルカラー等を設定し、イメージを体系的に整理し、簡潔に表わすことで、安曇野の水の魅力やその取り組みを広く認知させる。

プロジェクトにかかわる各事業で、一定の基準を満たし、安曇野のイメージアップにつながるものを“安曇野水のプロジェクト認定”する。

事業内容	実施体制	財源等
<p>水プロジェクトのロゴマーク、シンボルカラー、デザイン化した文字列、キャラクターなどを統一して設定し、関連事業に用いる。</p> <p>PR用オフィシャルウォーターを制作し、安曇野のイメージを宣伝する。</p>	<p>○業務委託。</p> <p>特にキャラクターの愛称は公募により行うことで、PRできる。</p> <p>オフィシャルウォーターについては、目的に応じて販売と配布の両面から検討する。</p>	<p>一般財源等</p>

事業名	事業内容	関係部署	概算事業費	目標年次	実施方法等
5 地下水調査の実施	水収支調査をはじめ、各種水質・水量調査を実施し、データを公開する。	環境課等	—	H23～	業務委託
6 ふゆ水田んぼなど環境循環型モデル地区の設定	“ふゆみずたんぼ”への補助制度の導入を検討する。モデル地区において、企業排水を利用し、実施。また、ゾーニングにより透水性アスファルト材を活用した道路を整備する。	環境課 農政課 建設課等	—	H23～	企業、農業生産団体等と調整し、段階的に実施する。モデル地区は、企業協力が得られ、市内外にPRできる場所を選定する。
7 水環境協力金制度の導入	環境保全基金を活用し市民からの提案型事業への補助、里山整備事業などに活用する	環境課 企画政策課	—	H24～	制度導入検討委員会の設置 基金活用協議会の設立基金の運用、管理面から民間団体の基金創設も検討する。
(関連事業) 森林、里山整備 環境学習の推進	自然教室など水環境の体験学習プログラムの実践	耕地林務課 教育委員会等 (社会教育課 学校教育等)			
8 CI事業の展開、安曇野水のプロジェクト認定制度の創設	水プロジェクトのロゴマーク、キャラクター設定、	上水道課 ブランド推進室 企画政策課等	1,500千円 (実施計画) 内訳) CIロゴ制作	H24～	業務委託
PR用オフィシャルウオーター作成			オフィシャルウオーター制作	H22～	

【安曇野創出プロジェクト会議開催状況】

	チーム会議	場所	内 容
第1回	平成21年1月9日	堀金総合支所	(1) チームリーダーの選出について (2) プロジェクトの内容について (3) 今後の日程及び進め方について
第2回	4月28日	豊科公民館	(1) プロジェクトの進め方及び検討経過について (2) 環境基本計画について (3) グループ討議
第3回	5月15日	豊科公民館	(1) グループ討議 (2) その他
第4回	6月10日	自然体験交流センター・せせらぎ	(1) グループ討議(施策提案のまとめ) (2) その他
視察研修	7月16日	山梨県忍野村 北杜市	(1) 観光案内人 (2) 環境協力金制度ほか
第5回	7月30日	ほりで一ゆー四季の郷	(1) グループ討議 (2) その他
第6回	8月20日	穂高広域施設組合	(1) グループ討議 (2) その他
第7回	9月16日	安曇野アクアピ ア	(1) プロジェクト提案の検討について (まとめ) (2) その他
	11月24日	堀金総合支所 301号大会議室	行政経営会議で提案説明、協議

【安曇野創出プロジェクト委員名簿】

部等	課等	職名	氏名	グループ
総務部	秘書課	主査	臼井 直美	2班
企画財政部	まちづくり推進課	主査	所 太久馬	2班
市民環境部	環境課	副主幹	山下泰永	1班
市民環境部	環境課	主査	堀 久士	1班
健康福祉部	健康推進課	主査	関 靖典	2班
産業観光部	農政課	主査	丸山 一弘	3班 副リーダー
産業観光部	耕地林務課	主査	木村 泰幸	1班
産業観光部	商工労政課	主査	中田吉成	2班
産業観光部	安曇野プラットフォーム推進室	主任	古田 美淑	2班
都市建設部	監理課	主査	丸山 誠	1班
都市建設部	建設課	主査	山崎 岳志	3班
上下水道部	上水道課	副主幹	藤原 聖士	1班 リーダー
上下水道部	下水道課	主査	二木 義弘	3班
教育委員会	学校教育課	主査	高橋 弓枝	3班
教育委員会	社会教育課	主査	赤沼さつき	3班
教育委員会	文化課	主査	財津 達弥	2班
教育委員会	学校給食課	副主幹	宮澤 式子	1班
豊科総合支所	産業建設課	主査	中村 紀康	1班
穂高総合支所	産業建設課	副主幹	丸山 ゆた子	1班
三郷総合支所	地域支援課	主査	務台 久仁明	2班
堀金総合支所	地域支援課	主査	百瀬 正幸	3班
明科総合支所	地域支援課	主任	中村 正輝	3班
教育委員会	文化課	主任	土屋 和章	2班
	会計課	主査	高木 千史	2班
総務部	資産税課	主査	斎藤 博亮	3班
事務局	企画政策課	企画員	野口 武史	
	企画政策課	主査	内山 渉	
	企画政策課	主査	黒岩 一也	

安曇野創出プロジェクト事業展開フロー ～みんなで描こう安曇野水絵巻～

【 事業・重点プロジェクト 】

【 テーマ 】

【 目 標 】

【 特性・発展課題 】

【 戦略・方向性 】

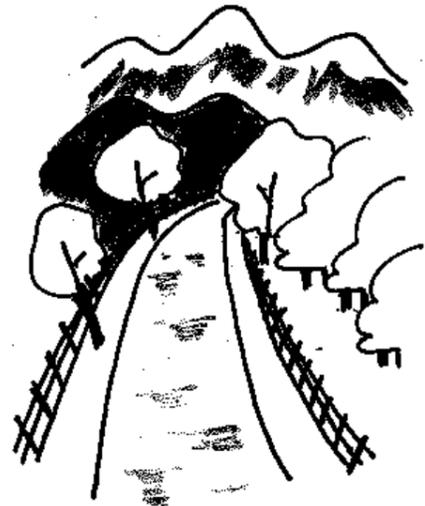
□安曇野市の将来都市像

北アルプスに生まれ ころろ輝く
田園都市 安曇野

□安曇野創出プロジェクトのコンセプト

水で結ばれ、
水と共に生きる安曇野

拾ヶ堰の開削やワサビ田の開拓など先人たちが育んできた景観や文化、歴史を踏まえ、水の大切さを再認識し、“みんなの宝物”である豊かな水資源をどう守り、どう生かしていくのか、分野の枠を超え、全庁的、総合的に“関連性、物語性のある施策”（安曇野水物語）を展開することを目指します。



I 水を守り、すべての生命を守り育む安曇野

【地下水をはじめ水資源を守り、水辺を大切にす】

II 水の恵みを生かし、水辺に憩い・集う安曇野

【各地域の水資源を結び、みんなが憩い、集う親水空間を創出する】

III 水環境を学び、文化や歴史、水の恵みを明日につなぐ安曇野

【先人たちが築いた文化、歴史を学び、未来につなげる】

IV “水との共生”を市内外に情報発信する安曇野“

【情報を発信し、市民意識の共有化を図る】

北アルプスを源とする豊かな水資源は、わたしたちの暮らしに潤いをもたらすとともに暮らしの根幹となっている。

近年、豊富であった湧水が減るなど環境が大きく変わり始めていることから水の涵養を促進し、里山などの自然環境保全に取り組むとともに、水の循環型システムを構築する必要がある。

水は水田、ワサビ田、ニジマス養殖など農林水産業をはじめ、工業、商工観光の振興に欠かせない共有財産である。

水の見どころがあり、ラフティングやカヌー、フィッシング、自然観察、トレッキングなど多くの人が、水辺に憩い集っている。これらを結び付け、新たな安曇野らしい親水空間の創出が必要である。

水田・田園風景とともに発達した歴史や水害などと戦ってきた歴史がある。

安曇野の田園には、先人たちが築いてきた堰が脈々と通っている。

お船祭りやお水とり・お水返しなど水の恵みに感謝し、文化を育んできた歴史がある。

教育の場で、水が育んできた文化や歴史を伝承し、水を大切に使う意識を醸成していく必要がある。

安曇野の田園風景を守り、新たな安曇野づくりに取り組む必要がある。

水が織り成す景などその魅力について、トータルコーディネートし、情報発信していく必要がある。

「水を守り、水を生かす安曇野」
「水の恵みを明日につなぐ安曇野」を情報発信し、意識の共有化を図る必要がある。

環境循環型システムの構築

地下水保全の制度化及び地下水調査の推進

親水空間の整備及び水辺を生かした滞在型観光の確立

水が育む文化、歴史の伝承（環境学習の推進）

水のトータルコーディネート事業の展開

【環境循環型システム構築】

- 1 水環境協力金制度の導入の検討
- 2 環境循環型モデル地区の設定
(企業排水等を利用した“ふゆみずたんぼ”の実施。ゾーニングによる透水性アスファルト材等の活用など)
- 3 森林、里山の整備促進(市民参加の森づくり)

【地下水保全の制度化及び地下水調査の推進】

- 1 地下水の利用に関する条例制定等
- 2 水収支調査の実施など

【親水空間の整備及び水辺を生かした滞在型観光】

- 1 安曇野水物語体感ツアーのコース設定
(公共交通、コミュニティサイクルの活用)
(遊歩道、カヌー活動拠点等親水スペースの整備)
- 2 水にかかわる食のブランド化
(ブランド米の推進)
(ワサビ、ニジマスなどブランド化の推進)
- 3 イベントの展開
(各イベントのタイアップ、市民意識の啓蒙等)

【文化、歴史の継承】

- 1 (仮称)安曇野水物語を登録
(拾ヶ堰開削物語、ワサビ田開拓物語、ニジマス養殖物語、お船祭りなど各地域の水物語の民話化、ホームページへ)
- 2 環境学習の推進
体験型プログラムの推進 (世代別プログラムの設定、実践団体の表彰)
ビオトープづくりの推進と情報提供

【水のトータルコーディネート事業の展開】

- 1 情報発信事業の展開
ホームページで情報発信
(水辺ライブカメラの設置、データの公開等)
ガイドブック、水マップの作成
- 2 水のマイスター登録制度の創設
- 3 安曇野の水CI事業の展開及び安曇野水のプロジェクト認定制度の創設
(オフィシャルウォーターの作成)
(統一ロゴでプロジェクトを認定、イメージキャラクターの設定)